
Rewriteの世界でヴァンガード

フグ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Rewriteの世界でヴァンガード

【著者名】

ZZマーク

【作者名】

フグ

【あらすじ】

作者紹介です。

皆さん始めてまして今回出展しましたフグです見ての通り駄作ですが、こんな作品でも暇ならしゃあないから見てやろうべういで見ていただければ嬉しい限りです。

先に言っておきますこんななRewriteじゃ無いって感じは多々あるのでご注意を。
それでも良いといつ人は見てください。

ヴァンガード前編（前書き）

このグダグダ感たまんねー

ヴァンガード前編

吉野「もう我慢ならねー、天王寺俺とデュエルしろ。」

そう言つて来たのはクラスメートであり不良の吉野晴彦だ。

瑚太朗「悪いが吉野俺はデュエルはしないがファイトなら受けて立つぜ。」

そして、こんな風に返した軽い男天王寺瑚太朗こそおれである。

吉野「よし俺とヴァンガードファイトで勝負だ。」

互いにデッキをシャッフルして、カードを5枚ドローする。

吉野「俺はノーチェンジだ。」

瑚太朗「俺はカードを2枚戻しシャッフルして2枚ドロー」

お互い入れ替えが終わつたからファイト開始だ！！

吉、瑚「スタンダザヴァンガード。」

吉野「バトルライザー。」

瑚太朗「コンロー。」

ターン1吉野手札5↙バトルライザー瑚太朗手札5↙コンロー

吉野「先攻は貰うぜ、ドロー！シャウトに俺様ライド、バトルライ

ザーは左後方にコールこれでターンエンドだ。」

ターン2吉野手札5↙シャウト左後方ライザー瑚太朗手札5↙コンロー

瑚太朗「俺のターン、ドローゴジョーにライドコンロー→後方にコールさらにバーを左前方にコール

アタックフェイズバーで↙にアタックだ。」

吉野「ノーガードトリガー・チエツクラウンドガールパワー+5000はシャウトにヒールはしないな」

瑚太朗「コンローをブーストしたゴジョーでアタック。」

吉野「くそ、ノーガードだ！」

瑚太朗「トリガー・チエツクターだパワー+5000と+1をゴジヨーに」

吉野「トリガー チェック1枚目アシュラカイザー、2枚目スリーミニツツパワー+5000をシャウトに

そしてドローするぜ！！」

瑚太朗「ドロー トリガー かまあ仕方ないなターン終了だ。」

前半だけでダメージ3点付いたここからどうなるかは後編に続く
!!

ヴァンガード前編（後書き）

今回は時間が無かつたので前編と言つ形にしました。
基本的には全部書き終わらしますのでよろしくお願いします。

ヴァンガード後編？（前書き）

サブタイトル通り、ヴァンガードの続きとは限りません。

ヴァンガード後編？

前編の続きだが、こんな展開になれば良かつた・・・
実質はこうだ

吉野「天王寺俺とデュエルしろ！！」

瑚太朗「悪いが吉野俺はカードゲームはしない。」

本当はバリバリしている人間なんだよなあ・・・

吉野「決闘と意味で使つた！」

本気の目だつた。

見た目通りの一匹狼だが、普段はクールだ。

瑚太朗「残念だよ吉野親友同士で、争うことになるなんてな」

吉野「てめえと親友になつたつもりはねえ、そいつを今日体で理解させてやる。」

瑚太朗「どうやら本気みたいだな、分かつた受けて立つ」

吉野「放課後、裏庭に来い、そこでジ・エンドくれてやる。」

瑚太朗「ああ、だがひとつだけ言つておく。」

吉野の波動に当たられた俺は二ヒルな気分になつて言ひ。

吉野「なんだ」

瑚太朗「俺はそう簡単に終わる男じゃない」

吉野「上等だ、そんなんてめえの呪え面見物だな。放課後だ忘れるんじゃねえぞ」

瑚太朗「ああ、理解つて^{わか}いる。」

その約束を忘れて俺はあつさり帰宅した。

ヴァンガード後編？（後書き）

ヴァンガード？なんてどこにも出てないじゃん。
まあ今田はいんなり感じで切り上ります。

小鳥現れる前編（前書き）

今回はちやんとガードをします。オリカが出ます。
小鳥のテックはグレートネイチャーです。
トリガーは全部4枚ずつです。

小鳥現れる前編

そして土曜日の夜に吉野との約束を思い出した。月曜日に謝れば良いだろ？と思つてその日は寝た。

そんな事をしていたから夜に召集が掛かつた。

しかし今までにも何度も召集は掛かつている。

理香子「小鳥さんが、森から帰らないので、連れ戻してください。

「 瑠太朗「わかりました。」

そう言われて、俺は森にやつて來た。

小鳥「ニニニ」

しばらく行くと小鳥は寝ていた。

瑠太朗（無防備だな）

小鳥を起こすために、体をゆすつてみるが、小鳥は起きる気配が全く無い。

瑠太朗（仕方が無い、奥の手を使うか）

俺はポケットから、小銭を取り出し、小鳥の掌に落としていった。すると、小鳥が嬉しそうな顔をしながら、その場で起き上がった。

小鳥はねぼけながら挨拶をしてきた。

小鳥「あつ瑠太朗君おはよう」

俺は苦笑をした。

小鳥「夜だよ！暗いよ…」

と小鳥は周りを見ながら言つてきた。

そして、自分の周りにあるカードを片付け出した。

瑠太朗「今日もヴァンガードのテックを考えていたのか？」

と俺が言つと、

小鳥「そうだよ」

小鳥「そうだ、一回だけ、ファイトしない？」

瑠太朗「別に良いが大丈夫なのか？」

小鳥「うん問題ないよ」

瑚太朗「よしわかつた。」

お互いに最初に5枚ドローする。

小鳥「私はカードを1枚戻すよ」

瑚太朗「俺は3枚戻す」

そしてお互いカードを入れ替える。

瑚小「スタンダップザヴァンガード」

小鳥「ハイドッグ」

瑚太朗「アンバードラゴン・ドーン」

ターン1小鳥手札5瑚太朗手札5

小鳥「私の先攻、シルバー・ウルフにライドハイドッグのスキルで左下にしてターン終了だよ。」

ターン2小鳥手札5瑚太朗手札5

瑚太朗「俺のターンデイライトにライド、ドーンの効果でダスクを山札から、手札に加える。デイライトでアタック」

小鳥「ノーガードだよ」

瑚太朗「トリガーチェック、ターニング+5000と1をデイライトに」

小鳥「ダメージチェック1枚目モンキールー2枚目ヒーリングロコン治トリガーだよダメージを1枚回復するね。」

瑚太朗「ターンエンド」

小鳥現れる前編（後書き）

見てもらひつて分かる通りキャラのデッキは原作っぽく作っています。

小鳥現れる後編（前書き）

小鳥の「トツキはさらに強くしていく予定です。」

小鳥現れる後編

ターン3小鳥手札5枚D1▽シルバー・ウルフ左後方ハイドッグ瑚太朗手札5枚▽デイライト

小鳥「私のターンドロー・パンダ（ジオグラフ・ジャイアント）にライド、ハイドッグのスキル発動このカードをソウルに入れて自分のグレートネイチャーパワー+3000する。パンダのパワーを+3000にするよ。そして手札のちびもすのスキルを発動。このカードは自分の▽にパワー13000以上のグレートネイチャーユニットがいる時スペリオルライドが出来るんだよ。」

ちびもすパワー11000

(▽▽R) Rに自分のグレートネイチャーハンマー時パワー-2000。

(▽) このカードがグレートネイチャーハンマーにブーストされたバトルのときこのカードのパワー+3000する。

瑚太朗「常時パワー14000と考えたほうが良いって事だな」

小鳥「うんそうだよ！まだ行くよ、ガーディングピーグを左前方に

Cさらにシルバー・ウルフを左後方にCするよ。」

小鳥手札2枚D1▽ちびもす左前方ガーディングピーグ左後方シリバーウルフ

瑚太朗手札6枚▽デイライト

小鳥「バトルシルバー・ウルフのブーストでガーディアンピーグでデイライトにアタック。」

パワー16000

瑚太朗「ターでガード。」

小鳥「ちびもすでデイライトにアタック。」

パワー11000

瑚太朗「そこはノーガードだ」

小鳥「トリガー・チェック1枚目プレゼントコアラ引トリガーだよ、

パワー + 5000 はガードティングピーグにしてカードを一枚ドロイするよ、2枚目ハイジャンプタイガーワークトリガーパワー + 5000 をガードティングピーグにしてスタンダードさせるよ。」

瑚太朗「ダメージチェックバーだ。」

小鳥「ガードティングピーグでアタック。」

パワー 18000

瑚太朗「ノーガードダメージチェックガトリングクローリトリガード、カードを一枚ドローする。」

小鳥「私のターンは終了だよ。」

ターン4

小鳥手札5枚D1Vちびもす左前方ガードティングピーグ左後方シリバーウルフ

瑚太朗手札7枚D2Vデイライト

瑚太朗「俺のターンスタンダンドドローダスクにライドV後方にデイライトをCデイライトのスキル発動オーバーロードを捨ててイクリップスをデッキからサーチする。左前方にネハーレンをC左後方にエルモをCさらにバーサークを右前方にCスキルでCB2でガーディングピーグを退却させる。右後方にバーをC。」

小鳥手札5枚D1Vちびもす左後方シリバーウルフ

瑚太朗手札2枚D2VダスクV後方デイライト左前方ネハーレン左後方エルモ右前方バーサーク右後方バー

瑚太朗「デイライトでブーストしたダスクでちびもすにアタック。」

パワー 18000

小鳥「ノーガード。」

瑚太朗「トリガーチェックバリィ。」

小鳥「ダメージチェックパンダ。」

瑚太朗「エルモでブーストしたネハーレンでちびもすにアタック。」

パワー 16000

小鳥「ハイジャンプタイガーデガード。」

瑚太朗「バーでブーストしたバーサークでちびもすにアタック。」

パワー 17000

小鳥「ノーガードダメージチェックガードディアンコング完全ガードが落ちちゃったよ。」

瑚太朗「ターンエンド。」

ターン5

小鳥手札4枚D3▼ちびもす左後方シルバーウルフ

瑚太朗手札3枚D2▼ダスク▼後方ディライト左前方ネハーレン左後方エルモ右前方バーサーク右後方バー

小鳥「わたしのターンスタンダンドドローライドスキップ▼後方にソニックバードをC左前方にパンダをC右前方にモンキールーをC。」

ソニックバードパワー7000

(▼/R) CB1このカードのパワーを+1000する。

小鳥「バトルモンキールーでネハーレンにアタック。」

パワー 10000

瑚太朗「バーサークでインターフェット。」

小鳥「シルバーウルフでブーストしたパンダでネハーレンにアタック。」

パワー 18000

瑚太朗「ゲンジョウでガード。」

小鳥「ソニックバードでブーストしたちびもすでダスクにアタック。」

パワー 21000

瑚太朗「ノーガード。」

小鳥「トリガー チェック1枚目ガーディアンコング2枚目エレファントアンカー トリガー +1とパワー +5000をちびもすに。」

瑚太朗「ダメージチェック1枚目ゲンジョウ2枚目イクリプス。ここに来ての空ヒールは痛い」

小鳥「ターン終了だよ。」

ターン6

小鳥手札4枚D3VちびもすV後方ソニックバーD左前方パンダ
左後方シルバー・ウルフ右前方モンキール

瑚太朗手札2枚D4VダスクV後方デイライト左前方ネハーレン
左後方エルモ右後方バー

瑚太朗「俺のターンスタンンドロードローイクリップスにライド右前方にラーザー・アームをCバトルバーでブーストしたラーザー・アームでちびもすにアタック。」

パワー20000

小鳥「エレファンタントアンカーでガード。」

瑚太朗「デイライトでブーストしたイクリップスでちびもすにアタック。」

パワー17000

小鳥「そこはノーガードでいいよ。」

瑚太朗「トリガー・チェック1枚目ター+1をイクリップスにパワー+5000をネハーレンに2枚目ドラゴキッド+1をイクリップスにパワー+5000をネハーレンに。」

小鳥「このタイミングで……なの?ダメージチェック1枚目ヒーリングロコンこのタイミングで来たって意味無いよ!一応パワー+5000をちびもすに2枚目シルバー・ウルフ3枚目エレファンタントアンカー私の負けだよ。」

WINNER瑚太朗

瑚太朗「ファイトが終わつたからそろそろ帰るか?」

小鳥「……うんそうだね」

瑚太朗「よっぽど悔しかつたのだろうな」

そして22時に帰宅した。小鳥は理香子さんに何も怒られずにその日は終わつた。しかし俺たちが帰つた後森ではある組織とある組織が対立していた事に俺はまだ知らなかつた。

小鳥現れる後編（後書き）

今回はオリカが目立つたと思われます。
後はグレートネイチャーのアイコンが出たらそっしごとしますのでよ
ろしくお願いします。

トッキッシュ（前書き）

これは悪魔でも作者の妄想にすきません。

テッキレシピ

小鳥のテッキレシピ

F V

ハイドッグ

グレード1

シルバー・ウルフ4

ソニッケバー・ド3

ガーディアン・コング3

? ? ? 3

グレード2

パンダ4

ガーディングピーグ2

? ? ? 3

グレード3

ちびもす4

モンキールー2

? ? ? 2

トリガ-

ジャンピングタイガ-醒4

エレファント・アンカ-4

プレゼント・トコアラ引4

ヒーリング・ロコ・ン・治4

瑚太朗のテッキレシピ

F V

Aドーン

グレード1

Aデイライト4

バリイ	バ一
ゴジヨー	ゴジヨー
エルモ	エルモ
グレード	グレード
Aダスク	Aダスク
ネハーレン	ネハーレン
ラーグアーム	ラーグアーム
バーサーク	バーサーク
ぐれーど	ぐれーど
イクリップス	イクリップス
オーバーロード	オーバーロード
デュアルアクス	デュアルアクス
グレード	グレード
コンロー	コンロー
トリガー	トリガー
ガトリングクローラー	ガトリングクローラー
ターフ	ターフ
ドラゴキッド	ドラゴキッド
ゲンジヨウ	ゲンジヨウ

ナックキレシピ（後書き）

？？？は小鳥ルートの話で出てきます。

ハチャメチャ 転校生前編（前書き）

更新して6日もたつているよ。

ハチヤメチヤ転校生前編

小鳥と別れた帰り道突然気配のような者を感じてふと後ろを向いた、だが後ろには何も無かつた。

家に帰り床に就いた俺だつたが途中で腕を握られているような感触がして目が覚めた。

腕には手形が付いていた。それを見た俺は恐怖のあまり氣を失つた。

瑚太朗 あれ・朝。

昨日何かあつたつけ。

都合の悪いことは忘れるに限る。それより今日の事だ。

瑚太朗（小鳥が学校に来ると言つていたな・・・）

朝食を食べて小鳥にモーニングコールをした

瑚太朗「小鳥か？ そろそろ学校に行く時間なんだけど」

小鳥『おわーつ！』

それだけで状況を理解した。

瑚太朗「小鳥まさかまた！」

小鳥『うわーつ！』

小鳥『今起きちゃつたよ。』

瑚太朗「やつぱり・・・」

小鳥『どうしよう。』

瑚太朗「ちゃつちゃと準備して出てこれないか、5分くらい待つぞ。』

小鳥『クオリティ低すぎるから30分はかかるよ・・・』

久しぶりに一緒に通学出来ると思つたらこれだ。

瑚太朗「分かつた今日は先に行くわ。』

小鳥『すまないねえ』

瑚太朗「一応確認するけど、体調わるいとか。』

小鳥『うんにや、気分は良いのだけど、爆睡しちまつたい。』

瑚太朗「分かつた。んじゃまた後でな。」

「ちょっと遅れ気味だ。早足で学校行こ。」

瑚太朗（やつと付いた。）

瑚太朗（なんだ・・・？）

全員の目が俺に向いていた。

瑚太朗「・・・おはようさん」

室内の緊張が、ふつと緩んだ。

聞いた話によると今日転校生が来るらしい。そんな中殺氣を駄々漏らしている奴がいた。

吉野「・・・」

そうヨツシーノこと吉野である。

吉野「つち、ぬけぬけと」

吉野「野郎に俺のデッドエンド・ナックル必ず」

しまいにはそんな怖いことを言い出したよ。

担任「はーい、吉野君。HRですよ。座りましょうね。」

吉野「つち、後で覚えてろ。」

担任「今日は転校生が来る予定でしたが、何故かきませんでした~」

その言葉に、教室全体が、ずるつとこけた。

瑚太朗（どういうことだ？）

本当に変な、話だ。

1時間目が、始まつて半分くらいたつたとき、

?「んしょ、んしょ」

とドアを開けながら入つてくる人が、いた。

侵入者はよつんぱいで入つてきた。

?「んしょ、んしょ」

鞄を咥えて、列の間を通りて行く。

教師「神戸はすでに欠席扱いだから、普通に座りなさい。」

小鳥「・・・うつふす！」

ばつが悪そうに席に着く

小鳥「すみません、遅れました。」

授業終了後、

吉野「てめえ、天王寺よくも週末は」

小鳥「いやー、まいっちゃつたよホント、見つかるとはーー見つかるとはー！教師侮り難しだよ。せつかく苦労して進入したのにねえ、悪いことは出来んもんだねえ」

小鳥「30センチの隙間をお尻がひつかからなくてくぐり抜けた時は、正直・・・勝つた！」

小鳥「つて思つたもんだけど・・・」

昼休み

小鳥に一緒に昼を食べようといつてみると。

小鳥「良いけど、お弁当持つてきた？」

そんな事を言われた、そう俺は弁当は持参していない・・・

瑚太朗「弁当買ひに行つてへら」

小鳥「行つてひら

いつも一人な俺、
買い弁の帰り道、

?「きやー」

ふと頭上で音がする。

もう一度、上を見上げよつとした瞬間、

?「わあああーつー？」

ハチャメチャ 転校生前編（後書き）

知っている人は上の人が、誰なのかご存知でしょう。
知らない人は、次話を楽しみにしておいてください。

ハチャメチャ 転校生中編（前書き）

今回は最後の叫び声のキャラが登場だ！

ハチヤメチヤ 転校生中編

がさがさあー

瑚太朗「うお、なんだなんだ。」

？「いつたたたた」

女の子が天から降つてきた・・・

瑚太朗「おーい、だ、大丈夫か？」

？「あつ！」

わたわたと、体を動かす・・・

女生徒「大丈夫じゃないです、降りられません・・・」

瑚太朗「怪我は」

女生徒「枝で擦り切れて、あちこち痛いです。」

ともあれ、状況を見直そう。

瑚太朗「・・・」

落ちるか？普通

瑚太朗「なんだって、またこんな？」

女生徒「落ちたんですね〜」

やつぱり、落ちたのか

瑚太朗「登つて手え貸してやるから、ちょっと待つてな」

女生徒「あつ！」

瑚太朗「ん！どうした？」

女生徒「パンツ見たら、起こりますよー！」

こんな状況でよくそんな事を言えるなあ

瑚太朗「別に、見るつもりも無い。」

女生徒「こっち来るなら、絶対見ないでください！」

瑚太朗「こっち見ないでくれって言われても、なんか登るとき上見

たらアウトじゃねえ？という感じだが。」

女生徒「それでも、見ないでください！」

瑚太朗「じゃあ、助けなくて良いか？」

女生徒「駄目です、助けてください！降りられませんから。」

これは、かなりの難題だ！

ためしにちょっと角度を変えてみてみる。

・・・あっやべ、ちょっとピンクが見えた。

瑚太朗「何かで、隠せないか？」

女生徒「動けないから、無理です！」

瑚太朗「じゃあつまり、上を見ずに、あんたもほぼ視界に入れずにこの木を登つて救出しようと？」

女生徒「です！」

そんなこと出来る奴がいるなら見てみたいぞ

瑚太朗「無理！」

瑚太朗「仕方ないから、俺は何も見ていないことにして通り過ぎることにするよ・・・」

そして、手をひらひらさせて、俺は背をむけ歩き出す。

女生徒「ああ、なんですかそれ、冷たすぎませんか？」

瑚太朗「だつて、無理なんだからしゃーないだろ？」

女生徒「それでも、おとこですか？」

瑚太朗「それが、助けてもらおうつて人の態度か？」

瑚太朗「まあ、俺は何も見てないから、通り過ぎらしてもうよ」

瑚太朗「エロ紳士に見つかって、『グッパン（GOOD PANT S！）』とか言いながら、写メ撮影されるなど、俺に見られるより、余程悪い状況を想像しながら待ち続けているがいいさ」

女生徒「そ、そんなのいやです〜」

瑚太朗「おつと、何も見てないのに独り」と言つちまつた。さて、モノマネでもしながら歩くとしよう。」

瑚太朗「・・・あの、ね、戦闘員が、ネ・・・お、ヒーロー！この組織を、ぶつ壊せ！！感動した！！」

女生徒「ふすー！」

自分でやつてなんだがこれぜんぜん面白くないぞ、これで笑うと

なると・・・

女生徒「いや、そんなことより、男の子なら、助けるべきです！」

瑚太朗「見えても良い？」

女生徒「だつ駄目です！」

瑚太朗「じゃあ、無理！」

女生徒「わつ、分かりましたから～」

瑚太朗「よつと！」

無事救出を終わる。

女生徒「はあ、助かりました！」

女生徒「実は、私こう見えて転校生なのです。」

どうやら、聞いた話によると、学校の位置が分からなくて、やつとの思いで見つけたは良いものの、ガードレールに体を預けたら、ものの見事に落ちてしまったみたいだ・・・

女生徒「うつ、屈辱です！」

瑚太朗「だから、ドンマイ！」

これが荷物か？

瑚太朗「これ俺が運んでやるよ」

瑚太朗「よつ！」

なんだこの重さは、この子はこんなもんを持つて街を彷徨つていたのか？

女生徒「あの～」

瑚太朗「ちょい待ち！」

女生徒「あの～？」

瑚太朗「なんだい？譲ちゃん」

女生徒「つとめて冷静に振舞おうとしてるのは分かりますが、顔真つ赤で血管浮いていますよ。」

女生徒「重いのですか？」

瑚太朗「細腕の女の子が持ち上げて、数時間彷徨つていられる程度の重さのダンボールが重いはずが無いだろ？」

女生徒「良いから、持ちますから。」

切れ気味に力を込めると、

(ビリ!)

瑚太朗「あつ」

女生徒「わつ！」

これまた、不運なのか盛大に坂を転がり落ちて行きそして、また、ガードレールを飛び越えて並せてしまった。

「そんなことをして云々」
救急車「ゼー・ルー・ゼー・ルー」

と騒がしいサイレンを鳴り響かせて、急行してきた。

そのまま救急車は女生徒を乗せて、病院にいつてしまつた。

よく考えたらこのキャラは小説にしたら長い…!
まあ、気にしないで行きましょー。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2568z/>

Rewriteの世界でヴァンガード

2011年12月21日22時50分発行